



天沼熊野神社社報

<http://www.amanumakumano.org/>

平成20年12月1日

発行所

天沼熊野神社

宮司 渡辺 寛

杉並区天沼2-40-2

TEL 3220-7866

感ずる庭そうじ

神社の朝一番の仕事は、ご社殿の扉を開ける事です。次に、神様にご挨拶をして、お参りの方が気持ち良くお参りいただけるように、境内の掃除を行うことです。この掃除が嫌いだったんです。毎日、毎日、一年中、休み無しなんですから。

落ち葉は秋だけだと思ってる方もいると思いますが、落ち葉掃除は一年中なんです。春でも、冬でも、だから嫌いなんです。休みがないんです。常緑樹も葉っぱが落ちるんです。常緑樹も葉っぱが落ちるんです。常緑樹は一年中落ちていきます。

ですから、雨が降れば喜んで朝寝をしていました。雨が上がっても「葉っぱが濡れてまだ掃けない。」小雨が降ってきたら、「ア！雨だ。」と掃除をやめて家の中に戻っていました。しかし、朝方雨が降っていたある午後、道路を掃いている時に、下校中の一年生から「あ、寝坊したんだ。」と言われました。「ドキッ」としました。

「こんな幼い子でもしっかり見ているんだ。」と、驚いてしまいました。それからは、掃き掃除をしつかりと意識して始めました。10年ほど過ぎてから、季節が巡っているのが判るようになりました。

常緑樹の「しい」「や」「かし」の新緑が輝く4月。ケヤキの葉が出てくる5月。秋になると、「いちよう」の葉



竣工時(平成七年)の光り輝く御社殿

っぱが黄色くなつて、素晴らしい景色を見せてくれます。そして、もっとすごいのは、黄葉に朝日が当たると時です。金色に輝くんです。これは、朝早く起きている人しか見ることが出来ません。真っ暗な中、外灯で照らされた黄色い葉っぱを掃き始めて、東の空が黒から藍、藍から青く、青から水色に、そして、雲がオレンジに輝いてきます。冷気の中、その先端に当り、黄葉が金色に輝いてきます。感激です。是非早起きして見てください。

また、春には、ソロの木から毛虫みたいな姿の、花なんだろうか、何なんだろうか、沢山ドサツと落ちてきます。「あゝまた今年も毛虫が落ちてきた。春も近づいたな。」と、思ったりもするのです。

一年、二年の庭掃除では、この「季節のめぐり」はなかなか分かりませんでした。落ち葉を掃除しているという意識だけでは、10年すぎて、やっと「この木の次はこの木かな、そろそろどんぐりが落ちてくる頃かな。」と分かってきました。そんな時に「自分もこの自然の中に包まれているのかな。自分も自然の中の一部なんだな。生かされているんだな。」と感ずるんです。そこに神の力を感ずるんです。「神がこのすばらしき自然を造り、人をもまた造り給ふ。」と感ずるんです。コンクリートジャングルの中で仕事をしている人々には分からない事だと思えます。そして、この素晴らしい四季があるのは日本だけなんです。ありがたいことです。お忙しいとは思いますが、春は桜、秋は紅葉と四季の巡りを感じられてください。心が豊かになっていくと思います。